

平成 27 年度
事業計画書

平成 27 年 3 月
学校法人十文字学園

目 次

はじめに.....	1
I. 教育・研究・社会貢献に関する計画.....	2
1. 十文字学園女子大学.....	2
(1) 教育に関する計画	
(2) 入学者受け入れに関する計画	
(3) 学生支援に関する計画	
(4) 就職支援に関する計画	
(5) 研究に関する計画	
(6) 社会貢献, 地域連携に関する計画	
(7) 国際化に関する計画	
2. 十文字中学校・十文字高等学校.....	5
(1) 教育に関する計画	
(2) 入学者受け入れに関する計画	
(3) 生徒指導・支援に関する計画	
(4) 進路指導の充実に関する計画	
(5) 地域連携に関する計画	
(6) 国際交流活動に関する計画	
(7) 安全教育に関する計画	
3. 十文字女子大附属幼稚園.....	10
(1) 教育に関する計画	
(2) 保護者等との連携に関する計画	
(3) 評価を活用した改善と発展に関する計画	
II. 管理運営に関する計画 (略)	
III. 施設設備に関する計画.....	12
IV. 人事に関する計画.....	12

はじめに

平成 27 年度の募集状況は、大学・中高ともに大変厳しい結果であった。学園内外の諸環境を考慮すれば、引き続き厳しい状況が継続されることが危惧される。学園の建学理念に基づき、学生生徒園児一人ひとりの夢を叶えるきめ細やかな教育活動を展開維持することは最大の使命であり、この為にも学園の最重要事項として早急に学園の財政基盤の強化策に全学園を上げて着手することが必要である。

平成 27 年度は学校法人十文字学園の中期目標期間の最終年度となる。これまでの事業計画の仕上げ更には発展として法人、各学校が力を合せて上記に対応する緊急施策を早急に、立案・実行する学園経営基盤改革の元年する所存である。そして、100 周年を見据えた中期目標・中期計画としていきたい。

I. 教育・研究・社会貢献に関する計画

1. 十文字学園女子大学

(1) 教育に関する計画

[中期計画]

- ① 学修時間の確保・増加を目的として、単位制度の実質化，成績評価の厳格化，授業計画の充実，教育課程の体系化などに取り組み，教育の質を全学で保証するシステムを構築する。
- ② 授業評価や学生の学修成果（学修時間）を把握し，教育の改善に反映させるシステムを構築する。
- ③ 学生の主体的な学修を促すために，本学の特色ある教育プログラムの展開を推進する。
- ④ 学修ポートフォリオの導入などを検討し，教育の質の改善を支援するシステムを構築し，能動的な学修への質的な転換に取り組む。
- ⑤ カリキュラム・ポリシー，ディプロマ・ポリシーに基づいた組織的な教育改善のために，TA・SA やアドバイザー等による教育サポートなどの教育改善に取り組む。
- ⑥ 教員の授業力，教育力の向上のために，FDを通してのアクティブラーニングやブレンディッドラーニングなどの授業開発や，教育課程全般に関して主導的に改善改革を実行できる体制を構築する。
- ⑦ 建学の精神を社会情勢の変化に対応し，学生，教員，職員及び社会一般に共通に理解できるわかりやすい表現に置き換え，「Jモデル」を通じて学内外に広く周知し，教育研究活動を行う。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 教育の質を全学で保証するため，CAP 制，GPA 制度，シラバスにおける時間外学修の明記，カリキュラムマップの作成による教育課程の体系化等，総合的な取り組みを実施する。
- ② 授業評価を教育改善に反映させる取り組みを，FD 活動を通じて展開していく。
- ③ 総合科目において特色のある教育プログラムを展開する。地域をキャンパスとした学びの実現のため，地域志向科目の設定と授業内容の検討・実施を行う。
- ④ J モデル（人材育成方針・目標）の学生版を策定し，その実施のために学生向けガイドブックを作成する。また，評価指標としてのルーブリックを開発する。
- ⑤ ポートフォリオシステムを導入し，その環境設定と運用方法を検討し，学修の成果測定・可視化に取り組む。
- ⑥ COC 事業による地域での教育研究活動を踏まえ，カリキュラム・ポリシー，ディプロマ・ポリシーを見直す。
- ⑦ 組織的な教育支援を目的として，担任制の活用，TA・SA の活用を推進していく。
- ⑧ 教員の授業力向上を目的とする教職員研修会を，全学的な FD 活動の中で実施する。
- ⑨ Jモデル教員版の枠組み・内容を検討する。
- ⑩ Jモデル職員版（案）を学生版・教員版の策定具合を見ながら改訂するとともに，事務職員の能力開発に取り組む。

(2) 入学者受け入れに関する計画

[中期計画]

- ① アドミッション・ポリシーに沿った効果的な入試を実施するとともに、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえて、入試方法の改善を進める。
- ② 学生募集に係る広報やイベント活動等の取組みを強化する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 高大接続や入試改革の流れに沿った、本学入試の将来ビジョンの検討を行なうとともに、アドミッション・ポリシーを見直す。
- ② AO 入試の実施体制を見直し効果的な入試の実施を行う。
- ③ 入試システムの導入により、Web 出願のほか、Web による受験票発行システムなどシステム化を検討し、受験生にとっても簡素化された入試システムを模索する。
- ④ アドミッション・ポリシーのほか、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを広く高校生に周知する方法を検討し、各ポリシーが浸透した入試方法について改善するよう計画する。
- ⑤ オープンキャンパス学生スタッフの自立性を高めることで、オープンキャンパスを活性化し、参加した高校生の満足度を向上させて、受験者数の増加及び入学の歩留まり率をあげる。
- ⑥ 大学を紹介する広報媒体として一番基本となる「大学案内パンフレット」の内容を見直すほか、学科リーフレットとの関連性について考え、有効な発行方法を探る。

(3) 学生支援に関する計画

[中期計画]

- ① 学生カルテの効果的な利用の見直しやクラス担任制度の拡充などを通して、個々の学生の学習意欲に応える支援体制を強化する。
- ② 学生総合相談室や健康管理センター、リメディアル教育センターなど、学生を支援する部署の連携協力を強化し、全学的に学生支援を強化する。
- ③ サークル活動やボランティア活動等、教育効果の高い学生の課外活動に対する支援を強化する。
- ④ 主体的な学修や学修時間の確保のため、図書館機能の見直しを図るとともに、ICT を活用した教育環境等を整備する。
- ⑤ 留学生の勉学と生活に対するきめ細かな支援体制を強化する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 学生及び教員が学生カルテ内の「教職課程履修カルテ」を有効に使用できるよう支援を行いつつ、導入予定のポートフォリオシステムとの統合をすすめる。
- ② 学生相談の窓口担当職員が、毎月 1 回定期的に情報交換を行い、悩みのある学生の学生支援を総合的かつ効果的に行う。また、必要に応じ、関係学科や関係部署への情報提供及び連携対応を行う。
- ③ 「十文字元気プロジェクト」を推進するとともに、学生が種々のイベントを企画・運営する環境を提供する。また、課外活動活発化のため諸方策を講じるとともに、連携市からボランティア情報を収集し学生に提供する。
- ④ ネットワーク設備を見直し、回線強化、速度向上を目指すとともに、情報センターの学生利用パソコンの改善をはかる。また、滞在型図書館を目標として各種施設のリノベーションを実施する。
- ⑤ 宿泊型オリエンテーションを新たに導入し、よりスムーズな留学生活スタートをサポートする他、「食生活指導」を新たに実施する。
- ⑥ 十文字奨学金の一層の充実のための寄附活動活発化のために制度設計を見直すとともに、私学事業団の受配者指定寄付金制度や古本募金の PR 活動を学内外に広く行な

う。

- ⑦ 授業料免除における「修学に熱意がある」ことの判定方法、及び十文字奨学金の選考における「学業」の判定方法について見直し、効果的な経済的支援策を検討する。現行制度や規則を抜本的に見直すことも検討する。

(4) 就職支援に関する計画

[中期計画]

- ① SPI などに対応する基礎学力の向上講座，社会人基礎力養成講座，インターンシップなど就業体験の充実及び卒業後のキャリア形成について調査研究を行う。
- ② 就職相談や就職支援関連イベント活動，求人先の開拓等の取り組みなどを強化し，高い就職率を維持する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 平成 27 年度から開講する共通教育キャリア関連科目（基礎学力講座と社会人基礎力講座，キャリアサポート）を支援する。インターンシップは単位認定対象学生 100 人参加を実現する。
- ② 同窓会会報を活用し卒業生の動向調査を実施する。
- ③ エンrollmentマネジメントの方法に基づく，学生のキャリア支援方法の検討を行う。
- ④ 企業訪問目標件数を 1,400 件，企業別難易度データを 1,000 件としエントリー誘導に活用する。業界セミナーを 30 社以上行う。就職活動時期後ろ倒しに伴う情報収集および学生指導強化により就職率 100%を目指す。

(5) 研究に関する計画

[中期計画]

- ① 共同研究や研究所への支援に重点的に取り組み，本学の特色ある研究を活性化させる。
- ② 科研費その他学外研究資金の獲得に向けて，申請数及び採択数を増加させる組織的な取り組みを行う。
- ③ 研究成果を広く社会に公開し，企業や地域との連携による共同研究を推進する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 研究推進委員会において，特別研修員になることの希望を事前に調査し，早い時期に事前相談を行うことにより，特別研修員制度を活用しやすくする。
- ② 研究所の再編を踏まえ，企業からの助成金，補助金等の外部資金の獲得を積極的に推進する。
- ③ 基盤研究費（個人研究費・研究活動支援経費）の使われ方をチェックし，研究経費の効果的適切な配分を行い，限られた予算の中で，競争的資金の性格を持つプロジェクト研究費の額を確保することにより研究の活性化を図る。
- ④ 複数回の科研費説明会を行うとともに，申請に向けて早い時期から研究計画を立て，よく練られた研究計画調書を作成することを促す。
- ⑤ 学外研究資金の公募情報を，研究助成募集年間カレンダーを整理し，有効，効果的な形で提供する。
- ⑥ COC 事業に関する研究体制の充実と重点化を図る。
- ⑦ ホームページを利用し，教員の研究情報を研究者，企業，地域に発信し共同研究に結び付ける。

(6) 社会貢献・地域連携に関する計画

[中期計画]

- ① 「本学の COC 機能（地域再生の核となる大学）のあり方」について検討を行うとともに、公開講座や大学施設の開放を引き続き積極的に推進する。
- ② 地域の課題解決に積極的に貢献するとともに、学生等の地域との共同事業等への参画を推進する。
- ③ 在校生，卒業生，保護者，地域住民等に対して，大学の活動への理解を深める取り組みを進め，連携を強化する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 学生の居場所と地域の NPO 法人などの交流（情報交換）の場として，学内の食事スペースの一部を開放し整備する。
- ② 平成 26 年度に収集した COC 事業をベースにした「新座市よりの連携事業案」をもとに NPO 法人等との連携も含め，企画段階から学生が参画する体制を作る。
- ③ COC 事業による地域での活動状況の情報発信（広報）を拡大し，さらに地域との連携を強化する。

(7) 国際化に関する計画

[中期計画]

- ① グローバル社会で活躍できる人材の育成に向けた教育活動の多様な展開を推進する。
- ② 学生の海外派遣を推進する。
- ③ 海外の教育・研究機関との協定締結を通じ，留学生・研究者の受入拡大を図る。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 「中国語検定試験」「実用日本語検定試験」の準会場実施および検定料無料化により，多くの学生の語学学習をサポートする。
- ② 海外留学者の体験談を記載した冊子を作成，配布すること等により，留学・語学研修を身近に感じる環境づくりを推進。
- ③ 海外協定大学よりの「単位認定留学（1年）」の新たな受入等，海外協定大学の様々なニーズに対応する学生の受け入れを推進する。

2. 十文字中学校・十文字高等学校

(1) 教育に関する計画

[中期計画]

- ① 学年・コース・教科ごとに到達目標を作り，中間評価，年度末評価を行い，改善に努める。
- ② 分かりやすい授業，魅力ある授業を展開する。そのために教科の授業や終礼時などにおける小テストの実施による学習到達度の確認，ICT(Information, Communication and Technology)の活用などで生徒の更なる学習意欲を喚起する。
- ③ 中学校では「タスクノート」，高校では「スタディレコード」を効果的に活用し，家庭学習の定着を図る。
- ④ 語学教育の強化：必修英語の学習時間を中学では7時間に増やす。その他の言語も選択で履修可能とする。
- ⑤ 現地体験：中3，高2の修学旅行を，旅行先，時期等について検討する。

- ⑥ 現地の歴史、文化、言語について準備するだけでなく、日本の文化史、近代史などの知識を学ぶほか、茶道・華道などの実習も行う。
- ⑦ 生徒の希望により、Ⅱ期中学3年生では学年1クラス、高校1年生では基本的に内部進学生1クラス、外部進学生1クラスの計2クラス設置し、生徒の学力向上のため、発展的な学習内容を含める。
- ⑧ 国公立大学および難関私立大学への進学を目指し、6年間を通した学年ごとの到達目標を作成する。放課後講習，勉強合宿を実施し，上位大学合格を目指した意識付けと発展的学習を行う。
- ⑨ Ⅱ期3年生の中学卒業時に海外研修を行い，グローバルな国際的視野の育成を行う。スーパー選抜コースのオーストラリア研修は修学旅行も兼ねることについて検討する。
- ⑩ 国公立大学への進学を目指し，3年間を通した学年ごとの到達目標を作成し，放課後講習，勉強合宿を実施し，上位大学合格を目指した意識付けと発展的学習を行う。
- ⑪ キャリアガイダンス機能を充実させ，学力向上とともに，広い視野を持った生徒の育成を行う。
- ⑫ 45分授業を見直し，それに伴う指導法を各教科で検討・工夫する。
- ⑬ 授業参観，授業研究等を奨励し，初任者のみならず学校全体でオープンな指導法の研修を推進する。
- ⑭ iPadや電子黒板などICTを効果的に取り入れ，生徒の知的好奇心を増し，学習意欲を高める授業を行う。
- ⑮ 思考力，判断力，表現力を育てる一環として，DDP学習等を計画的に実施する。
- ⑯ 授業改善を推進するために授業アンケートを実施する。
- ⑰ 中学校は補充学習，高等学校は発展学習や入試対策を中心に定期的な講習を今後も継続する。長期休業中の講習等については，参加しやすいように部活動等の練習日程や時間の工夫をする。
- ⑱ 試験前の居残りを認め，学校で自習したり，先生に質問したりできるような環境を整備する。
- ⑲ 6年生には，日曜日に登校して自習しやすい環境づくりをする。
- ⑳ 学校生活全体を通してコミュニケーション能力など社会力の育成，全校的な芸術鑑賞会への参加，茶道，華道の体験学習，音楽鑑賞会，部活など幅広い文化活動を通して情操教育を行う。
- ㉑ 自彊術体操の充実に向け，正確な動きを身につけさせる。
- ㉒ 部活動の振興は，礼儀や学習習慣の定着についても配慮する。本学の教育目標の一つである文武両道の人材育成の一環として部活動の推進を図る。

[平成27年度事業計画]

- ① 平成28年度入学生から，進学コースを廃止，スーパー選抜コースを改組して新コースの設置を年度初めまでに具体化して生徒募集を成功させる。
- ② 学年・コース・教科ごとに平成27年度の到達目標を作り，評価する。
- ③ スーパーグローバルハイスクールへの応募を検討する。
- ④ 教科の授業や終礼時などにおける小テストの実施による学習到達度の確認，思考力・判断力・表現力等の育成に向け，記録，要約，説明，論述といった学習活動に積極的に取り組む。その一環としてDDP (Debate, Discussion and Presentation) 学習を計画的に実施する。
- ⑤ 英語検定，GTEC，数学検定，漢字検定などにチャレンジさせることで，学力の定着

を図るだけでなく、知的好奇心も育てる。

- ⑥ 中学校では「タスクノート」、高校では「スタディレコード」を効果的に活用し、家庭学習の定着を図る。特に「スタディレコード」を一本化して継続性を図る。
- ⑦ 中学校では英語の授業時間を週1時間増やすとともに、英語好きになるように身近な関心のある内容を英語で教える。
- ⑧ 実施時期を3月下旬、6月などの選択も含め、修学旅行、ホームステイプログラムの検討を始める。
- ⑨ 新館4階の100畳の和室を活用し、茶道など日本文化の実習を開始する。
- ⑩ 高校におけるクラス編成を、スーパー選抜コース、スーパー特選コースとともに進路別になるようにする。
- ⑪ 国公立、難関私立、GMARCHなど実態に合わせた入試準備ができるようなカリキュラム編成をする。
- ⑫ 中だるみ現象をなくすため、平成25年度生から中3で選抜クラスを作る。
- ⑬ 中3春に実施しているスーパー選抜コースのオーストラリア研修は修学旅行も兼ねることについて検討を始める。
- ⑭ 国公立、難関私立、GMARCHなど実態に合わせた入試準備ができるようなカリキュラム編成を検討する。進学のための学力をつけるため、放課後講習などを強化する。
- ⑮ 高入生について、キャリア形成、上位大学合格を目指した意識付けを入学直後に行う。
- ⑯ 授業参観、授業研究のあり方について検討する。
- ⑰ 電子黒板の効果的な活用を英語、数学、理科、音楽、社会などで実施する。理科では実験を頻繁に行えるように実験助手を27年度も配置する。
- ⑱ 小論文科目の強化、DDP学習をふくむアクティブラーニングの計画的実施を推進する。
- ⑲ 授業改善を推進するために授業アンケートを実施し、その集計・分析結果を各教科・各教員にフィードバックする。その上で、改善策を各教員、教科で検討し実施する。
- ⑳ 放課後講習を進学コースにも拡大し強化する。
- ㉑ 放課後講習の実施もあり、年間の下校時間の延長を検討する。
- ㉒ 継続して、6年生の日曜日登校自習を実施する。平成26年度に試験的に実施した5年生3学期の日曜日登校自習を検証して本年度について検討する。また、放課後講習の実施に伴い、下校時間を延長して自習の機会を増やす。
- ㉓ 学校生活全体を通してコミュニケーション能力など社会人を養う。
- ㉔ 全校的な芸術鑑賞会への参加や新館を活用した茶道、華道の体験学習、部活動など幅広い活動を通して情操教育を行う。
- ㉕ 年間行事を見直す。
- ㉖ 自彊術体操の充実、救急救命法の指導など、本校の特色を維持・発展させる。
- ㉗ スポーツ系だけでなく、勉強系の部活も推進（英語部の強化、日本伝統文化部では後継者育成を考えた顧問の配置）する。
- ㉘ 部活の引退時期について検討する。
- ㉙ 全員顧問制を見直す。

(2) 入学者受入れに関する計画

[中期計画]

- ① 中学では、併願校化への流れが強まる実態を踏まえ、本校を第1志望とする受験

者増のための方策を打ち出し、実践する。

- ② 高校では、授業料無償化に伴う公立高校への志向の強まりに対抗し具体的な方策を打ち出し、実践する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 中学では、大学入試改変（思考力・表現力重視）に伴い、思考力や表現力を視野に入れた入試形態の多様化も検討する。
- ② 高校では、より意欲のある生徒を確保するため、クラスを細分化した入試を採用する。事前に入念な個別相談を実施し、単願・併願それぞれの受験生のニーズに応えた対応を行う。募集定員の増員を検討しており、その場合には、推薦基準の見直しも検討する。

(3) 生徒指導・支援に関する計画

[中期計画]

- ① 「生活指導」は教員全員が保護者、地域社会などとの連携で行う。生活指導部は指導の方向性を示すとともに、生活指導の在り方についての啓発活動を行い、全校の生活指導をリードする。
- ② 生徒会活動を活性化し、学校づくりや地域社会での活動などに積極的に参加できるように支援する。
- ③ 生徒との面談を通して、学習・人間関係などの問題を把握し、支援する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 生徒が自主的に通学規範、規律などを守るために、生活指導部と生徒会活動との連携を検討する。
- ② 新館利用、携帯許可などについて生徒会の意見も可能な限り反映させる。
- ③ 教員の生徒への接し方、教員の姿勢:カウンセリングはカウンセラーだけでなく、担任教員など他の教員も様々な状況で行う（朝礼、清掃、終礼、昼食時などの会話も含め、面接のあり方を工夫する）。

(4) 進路指導の充実に関する計画

[中期計画]

- ① 大学進学指導については、学校経営方針に基づいて進路指導部が指導方針、指導計画や戦略の策定、実行を推進する。
- ② 進路選択に向けて個別指導の充実を図る。その際、進路指導部は進路指導のデータを提供するとともに、ガイダンスでも学年を支援する。
- ③ 学年主任、教科主任等の主任会を毎月開催し、その一環として、1年生からの学習習慣の確立、学力の定着、スーパー選抜勉強会と講習の統合など補習・講習の有機的連合を図る。
- ④ キャリアガイダンス機能を充実させ、学力向上とともに、広い視野を持った生徒の育成を行う。
- ⑤ 十文字学園女子大学との連携を一層強化する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 6年間を見通しての進路指導計画を立案する。これについては、進路指導部が早急に計画を立案し、全校をリードする。
- ② 進学実績の向上は単に国公立大学・難関私立合格者数の増加だけを目標にするのではなく、全体の学力の向上と、進路決定への意欲の喚起の結果が自ずと進路実績の向上につながるという考え方で進路指導にあたる。

- ③ 全校の保護者に6年間を通じた進路指導を理解・協力してもらうために、保護者・生徒向けの「進路通信」を各学期に1回は発行する。
- ④ 主要3科の放課後講習、・S選の長期休業中の講習や、5年生・6年生対象の5科の講習を体系化して効果の増大を図る。また、卒業時の進路選択に海外大学進学も視野に入るように、在学中から情報を供与し、具体的な準備ができるよう、高校2年以降の授業にTOEFL対応の内容を組み込む。
- ⑤ キャリア教育推進に向けての資料を収集し、27年度から部分的な導入を視野に入れたカリキュラムの策定を図る。その際、全く新しい内容を計画するのではなく、従前から各学年が実施している内容、たとえば「女性と職業」というテーマで4学年は生徒一人一人が取材を行い、まとめを発表するなど、総合学習の一環として行っているが、こうした学習を全体を通してカリキュラム化する。
- ⑥ 卒業生を活用した講演会、「数学講演会」などこれまで行ってきた行事に加え、「グローバル社会で活躍する女性」や保護者の協力を得てなどテーマごとの講演会も開催する。
- ⑦ 中学生の保護者にも高校の様子が見えるようにする。
- ⑧ 十文字学園女子大学との打ち合わせを効果的に行い、連携を一層強化する。

(5) 地域連携に関する計画

[中期計画]

- ① 消防署、警察署、地元商店街など地域社会との連携による活動を推進する。

[平成27年度事業計画]

- ① 消防署、警察署、巣鴨商店街、大塚商店街、駒込商店街など地域社会との連携による活動を推進する。生徒のボランティア活動の可能性も検討する。
- ② 学校行事などを地域社会に公開する他に地域の方を対象とするイベントも可能な限り実施して、地域との連携を深める。

(6) 国際交流活動に関する計画

[中期計画]

- ① ホームステイプログラムを充実する。
- ② 補助金利用などによる留学生の派遣及び受け入れを推進する。
- ③ 生徒のグローバル意識を育てるため、様々な活動を行う。

[平成27年度事業計画]

- ① 担当者を強化し、ホームステイプログラムの内容を進化させ、参加者をさらに増やす。
- ② 東京都私学助成財団の留学補助金制度などについて情報提供をするとともに、留学制度について保護者対象の説明会を開催する。
- ③ 講演会の開催、部活によるグローバルな活動を支援する。
- ④ ホームステイ等で連携している高校との姉妹校提携を検討する。

(7) 安全教育に関する計画

[中期計画]

- ① 防犯教室、避難訓練、防災教育を実施・実践する。

[平成27年度事業計画]

- ① 巣鴨警察署など地域社会と連携して、防犯教室、避難訓練、防災教育を効果的に実施・実践する。

- ② 防災マニュアルの見直しをする。

3. 十文字女子大附属幼稚園

(1) 教育に関する計画

[中期計画]

- ① 全教職員が参画し、外部有識者の意見も踏まえて、教育目標を検討する組織を設置する。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 本園の教育課程及び指導計画の検証と、さらなる充実を継続して図る。
- ② 保育研究，研修の充実を継続して行う。
- ③ 保育環境の整備（施設設備・教材の充実，環境緑化）を継続して行う。

(2) 保護者等との連携に関する計画

[中期計画]

- ① 本園関係者から幅広い意見を取り入れる。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 子育て支援の一環として、未就園児の保護者対象講演会「はらっぱ」を継続して開催する。
- ② 指定保育士養成施設として指定されている十文字学園女子大学と，子どもの教育についての連携体制を継続して構築していく。

(3) 評価を活用した改善と発展に関する計画

[中期計画]

- ① 自己評価，学校関係者評価，第三者評価を行う体制の構築を検討する。
- ② ホームページ等により情報公開を行う。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 自己点検評価の導入を検討する。

Ⅱ. 管理運営に関する計画（省略）

Ⅲ. 施設設備に関する計画

○大学

- ・サッカーグラウンド付帯施設（クラブハウス及び屋外トイレ）の建設工事
- ・第二次教育体制改革に附随する教室等増改築工事
- ・上記工事にとまなう什器備品の購入

○中学校・高等学校

- ・本館外壁タイル改修工事（第一期工事）
- ・本館吹き抜け改修工事
- ・本館理科モール改修工事
- ・本館門扉改修工事
- ・教育研究用機器備品（電子黒板，タブレット端末等 IT 機器）の購入
- ・管理用機器備品の購入

Ⅳ. 人事に関する計画

[中期計画]

- ① 学園の目標に基づき，社会の状況変化に応じて，必要と考えられる学校，部署に教職員を配置する。
- ② 学園の基本的目標に沿った視点で教職員の人事評価を行い，その結果を勘案する給与制度を構築する。
- ③ FD や SD など組織的，計画的な研修等により，学園が基本姿勢としている学生，生徒，園児一人一人に応じたきめ細かい教育，サービス提供の質的向上を図る。

[平成 27 年度事業計画]

- ① 各学校の平成 27 年度以降の教職員新規採用は見送り，専任教職員数の削減を図るとともに，実際の学生数・生徒数・園児数を踏まえ，適正人数と配置について早急に見直しを行う。
- ② 教職員の資質向上（研修等）に関し，継続して取り組む。
- ③ 【大学】教職員人事評価の検証を行い，引き続き必要な改善を図る。
- ④ 【中高・幼稚園】人事評価制度の導入を検討する。